

〈 改善報告書検討結果（福岡工業大学） 〉

[1] 概評

2005（平成17）年度の本協会による相互評価に際し、問題点の指摘に関する助言として22項目、勧告として1項目の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書は具体的かつ明快に記述され、貴大学がこれらの助言・勧告を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。また、多くの項目についてその成果も満足すべきものである。

ただし、教育内容・方法について、工学部に1年間の履修登録単位数の上限設定を求めていた件については、学科単位で改善されてきているものの、生命環境科学科ではまだ検討段階にある。また、大学院学生の基礎学力の低下に伴う、授業の理解度を向上させるための工夫に関しては、「学生による授業評価アンケート」の「満足度」の向上のみでは改善状況が判断し難いため、引き続き分析と検討が望まれる。

学生の受け入れにおいて勧告事項となっていた工学部および情報工学部の定員超過について、収容定員に対する在籍学生数比率は改善傾向にあるものの、1.27、1.25と両学部とも依然として高い。入学定員に対する入学者数比率の平均も工学部では1.25となお高く、今後一層の厳格な定員管理に向けた努力が必要であろう。また、留年率や中途退学者が多いことについて、学生の基礎学力向上のための改善策がとられているが、退学率・留年率ともに横ばい状態になっており、成果が表れていないので、引き続き、きめ細やかな対応が望まれる。

研究環境については、業績の教員1人あたりの平均は増えているものの、学科ごとのばらつきは依然として変わっていないので、引き続き研究活動の活性化に向けて努力することが望まれる。

教員組織では、専任教員の年齢構成のバランスを改善するため、若手教員を採用するなど改善が図られているが、今後も引き続き計画的な採用を心がけることを期待したい。

図書・電子媒体等については、図書館を利用する学生数の減少について、方策が実施されているものの入館者数や貸出冊数はさらに減少しており、一層の工夫が望まれる。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

- 1 「学生の受け入れ」に関し、工学部と情報工学部の収容定員に対する在籍学生数比率（1.27、1.25）ならびに工学部の過去5年間の入学定員に対する入学者数比率（1.25）が依然として高いので、次回大学評価申請時に再度報告されたい。